

BELLUNA

証券コード：9997

INTERIM BUSINESS REPORT



お客様の衣食住遊を豊かにする

株式会社ベルーナ

第49期

中間株主通信

2024年4月1日～2024年9月30日



8つの事業セグメントを
今後の成長性・収益性の拡大を担う領域と、
安定した収益性・継続性・社会性を担う領域に再編。
最適な経営資源の配分を実現し、
さらなる事業の発展を目指す。

代表取締役社長 安野 清

当社グループを取り巻く市場環境

日本経済は、インバウンド需要の拡大や雇用・所得環境の改善などにより景気は緩やかに回復しております。一方で、長期化する地政学リスクや金融政策の見直しによる為替レートの変動や原材料・資源価格の高騰による継続的な物価上昇など依然として先行き不透明な状況が続いております。

当期の概況

当中間連結会計期間の売上高は971.3億円（前年同期比1.1%増）となり、営業利益は35.7億円（同15.3%増）、経常利益は41.4億円（同4.2%減）となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は25.7億円（同21.4%減）となりました。

財政状況に関しまして、流動資産は、前連結会計年度末比34.1億円増加し、1,333.7億円となりました。固定資産は、前連結会計年度末比22.9億円増加し、1,730.2億円となりました。この結果、資産合計は、前連結会計年度末比57.0億円増加し、3,063.9億円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末比85.7億円増加し、677.8億円となりました。固定負債は、前連結会計年度末比28.3億円減少し、1,024.7億円となりました。この結果、負債合計は、前連結会計年度末比57.3億円増加し、1,702.4億円となりました。

一方、純資産は、前連結会計年度末比0.4億円減少し、1,361.4億円となりました。この結果、自己資本比率は44.1%となりました。

当期の進捗

当社グループは今期より8つのセグメントを今後の成長性・収益性の拡大を担う「グロース領域」と、安定した収益性・継続性・社会性を主眼においた「サステナブル領域」の2つにグループ分けをし、それぞれに適した経営資源の配分、事業展開を図っております。

「グロース領域」における「プロパティ・ホテル事業」では、国内ホテル事業において、国内旅行需要やインバウンド需要が増加したことなどにより大幅な増収増益となりました。国内リゾート型ホテルにおいては、酷暑の影響から特に北海道エリアのホテルにおいて国内旅行需要が旺盛であったことやリニューアル工事を行ったことにより客室単価が上昇しました。また、競合他社が人手不足で苦戦する中、当社の強みである外国人人材の補充により高稼働を維持することが出来ました。国内都市型ホテルにおいては、札幌や銀座、京都、大阪とインバウンドに人気のエリアに立地していることもあり客室単価や稼働率が上昇しました。海外ホテル事業においては、スリランカの首都コロンボにある大型ホテルが開業3年目となりブランド認知も定着してきたことなどにより増収増益となりました。この結果、売上高は166.5億円（同12.1%増）となり、セグメント利益は27.9億円（同55.9%増）となりました。

「化粧品健康食品事業」では、化粧品通販事業において、新規顧客の獲得数は前年同期と比べ増加に転じました。一方で、定期コースの売上が前年同期と比べ減少したことなどにより減収減益となりました。健康食品通販事業においては、

財務ハイライト（連結）

売上高	971.3億円（前年同期比1.1%増）
営業利益	35.7億円（前年同期比15.3%増）
経常利益	41.4億円（前年同期比4.2%減）
親会社株主に帰属する 中間純利益	25.7億円（前年同期比21.4%減）

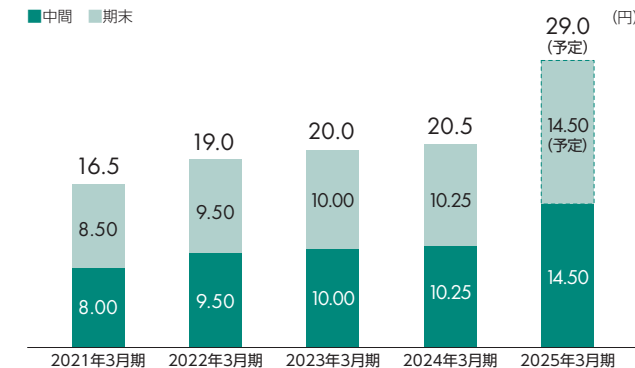
インフォーマーシャルを中心に新規顧客の獲得強化を図りましたが計画には届かず、減収減益となりました。この結果、売上高は67.5億円（同9.3%減）となり、セグメント利益は1.0億円（同75.7%減）となりました。

「グルメ事業」では、グルメ通販事業において、サービスレベル向上のためにシステムを刷新したことにより電算費が上昇しました。一方で、媒体発行数等の広告宣伝費の見直しや商品価格の見直しにより前年同期と比べ売上に対する経費比率が改善したことなどにより減収増益となりました。この結果、売上高は126.9億円（同0.1%減）となり、セグメント利益は0.6億円（前年同期は1.0億円のセグメント損失）となりました。

「ナース関連事業」では、看護師向け通販事業において、円安の進行や原材料・資材の高騰を受け仕入原価が上昇したため、収益性を重視し一部販売経路において商品価格の見直しや媒体発行数の抑制を行いましたが、減収減益となりました。この結果、売上高は66.4億円（同1.3%減）となり、セグメント利益は3.1億円（同16.0%減）となりました。

「サステナブル領域」における「呉服関連事業」では、和装販売事業において、前期および当期に実施した不採算店舗の閉店に伴う稼働顧客数の減少などにより減収減益となりました。(株)BANKANわものやにおいてはローコストオペレーションの推進により引き続き収益性の改善が図られました。衣裳レンタル事業においては、同業他社の撤退により卒業式袴レンタルの受注が大幅に増加し、それに伴う経費が増加したことなどにより、増収減益となりました。この結果、売上高は101.1億円（同2.8%減）となり、セグメント損失は4.0億円

1株当たり配当金の推移



（前年同期は1.9億円のセグメント損失）となりました。

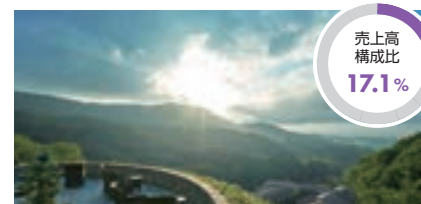
「アパレル・雑貨事業」では、アパレル・雑貨通販事業において、円安の進行や原材料・資材価格の高騰を受け仕入原価が上昇したため、広告宣伝費の抑制を行いました。商品価格にメリハリをつけたことや商品力強化に注力したことなどによりレスポンス率は改善し、新規顧客数ならびに稼働顧客数は前年同期と比べ増加しました。この結果、売上高は353.7億円（同1.6%増）となり、セグメント損失は15.4億円（前年同期は13.4億円のセグメント損失）となりました。

「その他の事業」では、アパレル卸売事業において、クライアント各社の展開縮小が継続していることや在庫処分を前倒しで行ったことなどにより減収減益となりました。旅行代理店事業においては、成長性を優先し積極的に広告宣伝を行ったことなどにより増収減益となりました。この結果、売上高は12.7億円（同4.5%減）となり、セグメント損失は3.0億円（前年同期は1.8億円のセグメント損失）となりました。

「データベース活用事業」では、封入・同送サービス事業において、アパレル・雑貨通販事業における媒体発行数が減少したものの、既存クライアントへの営業強化が功を奏したことや新サービスを展開したことなどにより増収増益となりました。フルフィルメント受託サービス事業においては、新規クライアントの獲得は順調であったものの、既存クライアントの売上減少や人件費等の上昇などにより減益となりました。ファイナンス事業においては、新規顧客が前年同期と比べ効率的に獲得できたため増収増益となりました。この結果、売上高は82.9億円（同1.1%増）となり、セグメント利益は25.6億円（同0.5%増）となりました。

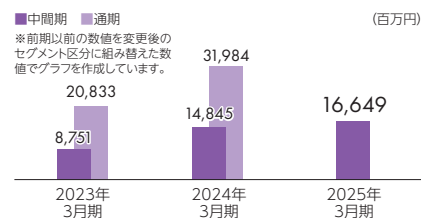
プロパティ・ホテル事業

- ・ホテル事業
- ・不動産事業（オフィスビルなどの賃貸・開発・販売）
- ・太陽光発電事業



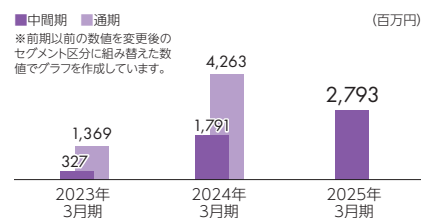
売上高

166.5億円（前年同期比12.1%増）



セグメント利益

27.9億円（前年同期比55.9%増）



国内ホテル事業においては、国内旅行需要やインバウンド需要が増加したことなどにより大幅な増収増益となりました。海外ホテル事業においては、スリランカ的首都コロポにある大型ホテルが開業3年目となりブランド認知も定着してきたことなどにより増収増益となりました。この結果、売上高は166.5億円（前年同期比12.1%増）となり、セグメント利益は27.9億円（同55.9%増）となりました。

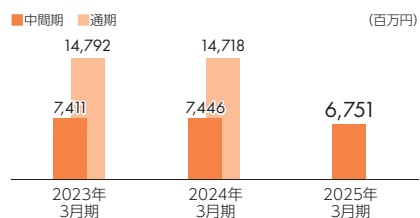
化粧品健康食品事業

- ・化粧品通販（オージュオ・なちゅライフ）
- ・健康食品通販（リフレ）



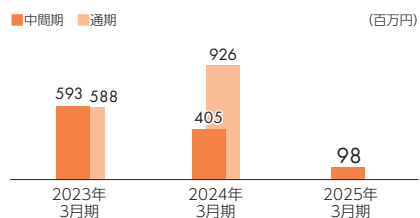
売上高

67.5億円（前年同期比9.3%減）



セグメント利益

1.0億円（前年同期比75.7%減）



化粧品通販事業においては、新規顧客の獲得数は前年同期比で増加に転じました。一方で、定期コースの売上が前年同期と比べ減少したことなどにより減収減益となりました。健康食品通販事業においては、新規顧客の獲得強化を図りましたが計画には届かず、減収減益となりました。この結果、売上高は67.5億円（前年同期比9.3%減）となり、セグメント利益は1.0億円（同75.7%減）となりました。

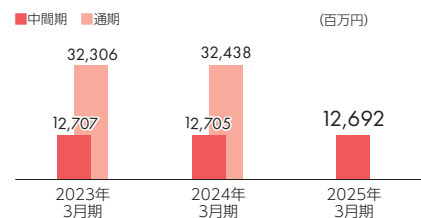
グルメ事業

- ・食品通販、日本酒通販
- ・ワイン通販



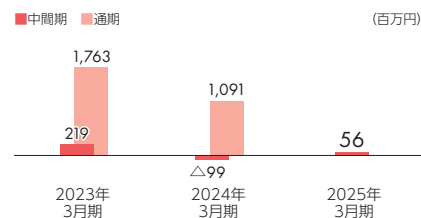
売上高

126.9億円（前年同期比0.1%減）



セグメント利益

0.6億円（前年同期は1.0億円のセグメント損失）



グルメ通販事業においては、サービスレベル向上のためにシステムを刷新したことにより電算費が上昇しました。一方で、媒体発行数等の広告宣伝費や商品価格の見直しにより前年同期と比べ売上に対する経費比率が改善したことなどにより減収増益となりました。この結果、売上高は126.9億円（前年同期比0.1%減）となり、セグメント利益は0.6億円（前年同期は1.0億円のセグメント損失）となりました。

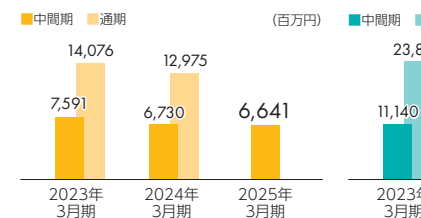
ナース関連事業

- ・看護師向け通販（ナースリー・アンファミ工）
- ・看護師人材紹介（ナースキャリアネクスト・JOB STUDIO）



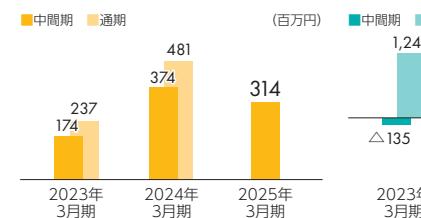
売上高

66.4億円（前年同期比1.3%減）



セグメント利益

3.1億円（前年同期比16.0%減）



看護師向け通販事業においては、円安の進行や原材料・資材の高騰を受け仕入原価が上昇したため、収益性を重視し一部販売経路において商品価格の見直しや媒体発行数の抑制を行いました。この結果、売上高は66.4億円（前年同期比1.3%減）となり、セグメント利益は3.1億円（同16.0%減）となりました。

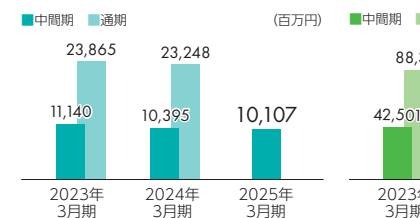
呉服関連事業

- ・和装店舗（BANKANわものや・さが美・東京ますいわ屋）
- ・大学生の卒業式袴レンタル（マイム）



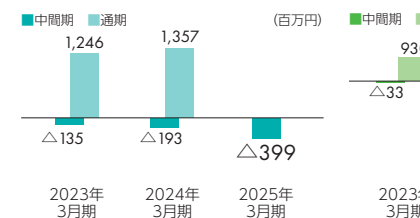
売上高

101.1億円（前年同期比2.8%減）



セグメント利益

△4.0億円（前年同期は1.9億円のセグメント損失）



和装販売事業においては、不採算店舗の閉店などにより減収減益となりました。衣裳レンタル事業においては、受注が大幅に増加した一方、経費が増加したことなどにより、増収減益となりました。この結果、売上高は101.1億円（前年同期比2.8%減）となり、セグメント損失は4.0億円（前年同期は1.9億円のセグメント損失）となりました。

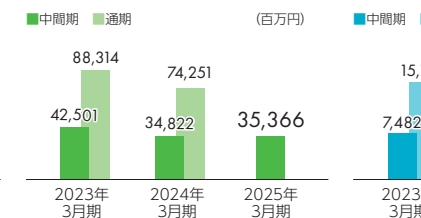
アパレル・雑貨事業

- ・ミセス層中心のカタログ、ネット通販
- ・ネット専業通販（ミン・アイシーネット・丸長・セレクト）
- ・アパレル店舗（BELLUNA）



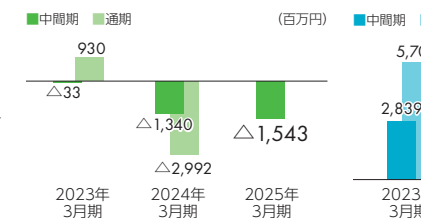
売上高

353.7億円（前年同期比1.6%増）



セグメント利益

△15.4億円（前年同期は13.4億円のセグメント損失）



アパレル・雑貨通販事業においては、広告宣伝費の抑制、商品力強化に注力したことなどによりレスポンス率は改善し、新規顧客数ならびに稼働顧客数は前年同期と比べ増加しました。この結果、売上高は353.7億円（前年同期比1.6%増）となり、セグメント損失は15.4億円（前年同期は13.4億円のセグメント損失）となりました。

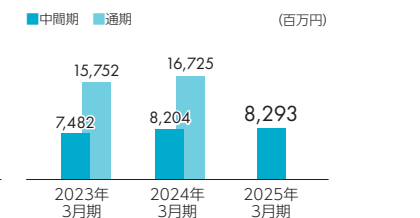
データベース活用事業

- ・封入・同送サービス（ペルーナダイレクト）
- ・通販代行サービス（BBS）
- ・ファイナンス事業（ペルーナノーティス）
- ・物流3PL事業（BGL・レーベル）



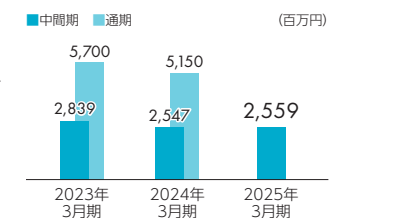
売上高

82.9億円（前年同期比1.1%増）



セグメント利益

25.6億円（前年同期比0.5%増）



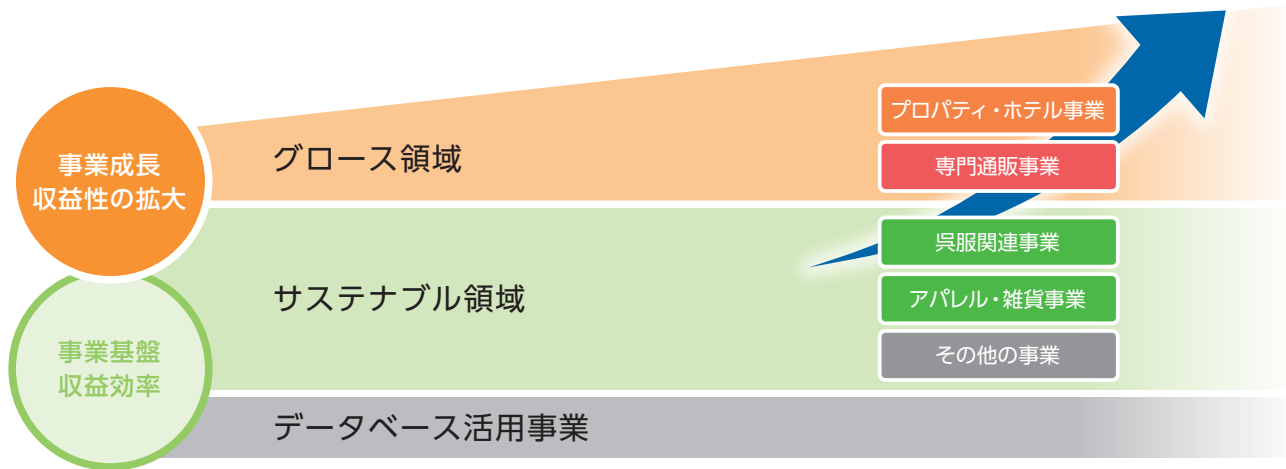
封入・同送サービス事業、ファイナンス事業においては、既存クライアントへの営業強化、新規顧客獲得の効率化などにより増収増益となりました。フルフィルメント受託サービス事業においては、人件費等の上昇などにより減益となりました。この結果、売上高は82.9億円（前年同期比1.1%増）となり、セグメント利益は25.6億円（同0.5%増）となりました。

▶ 新たな成長概念を策定

当社はこのたび、事業環境の変化への迅速な対応と、さらなる事業成長を目指し、事業を新たに区分する「新グルーピング」と、「成長概念図」を策定・導入いたしました。

新グルーピングでは「グロース領域」と「サステナブル領域」を設け、事業成長や収益性の拡大を担うグロース領域には、「プロパティ・ホテル事業」「専門通販事業」を区分。事業基盤や収益効率の最大化を図るサステナブル領域には、「呉服関連事業」「アパレル・雑貨事業」などを分類し、消費インフラとしての社会的価値提供を続けてまいります。

データベース活用事業は「グロース領域」「サステナブル領域」とも密接に関わりがあるため独立した存在に位置づけています。



▶ 株主還元の拡充について

当社では、企業価値の向上を通じた株主の皆様への利益還元を重要課題のひとつとして位置づけ、継続的かつ安定的な配当を実施してまいりました。この度、株主の皆様のご期待や当社の経営成績、資本状況などを踏まえ、株主還元の拡充を図るべく、株主還元方針を明示いたします。

変更の内容

- ・株主資本配当率 (DOE) 1.5%を下限とし、連結配当性向35%を目途に配当を実施します。
- ・単年度の業績影響を受けにくいDOEを指標として採用することで、配当の安全性向上に努めてまいります。

	1株あたり配当金			連結配当性向	DOE (株主資本配当率)
	中間期末	期末	年間合計		
2023年3月期	10円00銭	10円00銭	20円00銭	26.1%	1.49%
2024年3月期	10円25銭	10円25銭	20円50銭	33.9%	1.48%
2025年3月期 (予想)	14円50銭	14円50銭	29円00銭	35.1%	—

配当金は、25/3期 年間29円の配当予定

▶ 北海道で2つの新ホテル開業&リニューアルオープン!

当社子会社である株式会社グランベルホテルでは、快適で心地良いホテルステイサービスの提供を目指し、新たなホテル「SAPORO HOTEL by GRANBELL」「小樽グランベルホテル」の開業、および「定山溪ビューホテル」の客室リニューアルを予定しています。

2025年、グランベルホテルから2つの新ホテルが誕生 ～「SAPORO HOTEL by GRANBELL」&「小樽グランベルホテル」～

2025年4月に開業予定の「SAPORO HOTEL by GRANBELL」は、札幌市街地で最大級となる605室の客室と、1,924人の収容人数を誇るデザイナーズホテルです。北海道の中心地である札幌駅前に位置し、SKY SPAやルーフトップレストランも併設予定で、心身ともにリラックスできるひとときをご提供します。



SAPORO HOTEL by GRANBELL

所在地: 北海道札幌市東区北6条東2丁目1-1
アクセス: JR札幌駅「北口コンコース」出口 徒歩7分
客室数: 全605室 (7タイプ)
フロア: 1階 フロント・オープンテラス付メインダイニング
2階 パンケットフロア 3～24階 客室 25階 SKY SPA
26階 ルーフトップレストラン 開業予定日: 2025年4月

2025年7月に開業予定の「小樽グランベルホテル」は、北海道エリアで8拠点目となるホテルです。小樽は、歴史のある石積みの倉庫が残る、ガス灯やランプの似合うノスタルジックな街並みが人気の観光地であり、これらの街並みと調和する新しいデザインを取り入れたデザイナーズホテルです。

小樽グランベルホテル

所在地: 北海道小樽市堺町1-1 アクセス: JR小樽駅 徒歩15分
客室数: 全159室
フロア: 1階 ロビーラウンジ・レストラン 2～5階 客室
6階 露天風呂付大浴場・BAR テラス 開業予定日: 2025年7月



「定山溪ビューホテル」2024年12月下旬より客室リニューアル ～「エグゼクティブスイート翠嶺」を15階・16階にオープン～



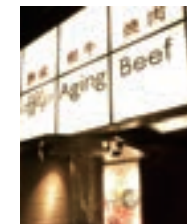
札幌の奥座敷「定山溪」に佇む巨大スパ・リゾート「定山溪ビューホテル」。新たにオープンする15階・16階の客室「エグゼクティブスイート翠嶺」は、“何もしない贅沢”を楽しむ、大人のための穏やかなひとときを過ごせるホテルとしてオープンします。鶴姫・舞姫側の大浴場サウナ「NATURE COLOR SAUNA」も2024年12月下旬にオープンし、温度の異なる3つのサウナを楽しめるホテルへと生まれ変わります。

エグゼクティブスイート翠嶺

所在地: 北海道札幌市南区定山溪温泉東2丁目11番2他 アクセス: JR 札幌駅よりバス約66分 ※宿泊者専用の無料送迎バスがございます。
部屋数: 全33室 フロア: 15階客室 (3タイプ)・16階客室 (4タイプ)・ラウンジ 開業日: 2024年12月下旬

「エイジング・ビーフ」ブランドで焼肉店等を16店舗展開 株式会社新和の全株式を取得!

当社の100%連結子会社である株式会社エルドラドは、「エイジング・ビーフ」のブランド名で焼肉店・ステーキ店等を16店舗展開する株式会社新和の全株式を、2024年9月6日付で取得し、同日に「株式会社エイジング・ビーフ」へ商号を変更しました。国産黒毛和牛の熟成肉をはじめとした商品のクオリティ、ホスピタリティの高い接客等が評価される同社に資本面からの支援をすることによって、新規店舗の出店など今まで以上にスピード感を持った事業拡大を目指してまいります。



当社では、株主の皆様からの日頃のご支援に対する感謝の気持ちを込めまして、株主優待制度をご用意しています。**1「優待割引券、優待ポイント」**または**「自社取扱商品」**及び**2「ベルーナグループが運営及び提携するホテル、飲食店、小幡郷ゴルフ倶楽部、SPA & SAUNA コリドーの湯で使用できる優待割引券」**をご利用いただけます。内容やご利用方法をご確認の上、ぜひご利用いただければ幸いです。今後とも、変わらぬご愛顧とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株主優待内容

1 「優待割引券、優待ポイント」または「自社取扱商品」から選択

1 当社運営の通信販売で使用できる優待割引券



2 ベルーナオンラインストアで使用できる優待ポイント



3 自社取扱の食品またはワインまたは日本酒



※お届け時期については株主様ご優待券をご参照ください

保有株式数	優待の内容 優待割引券、優待ポイントまたは自社取扱商品から選択
100株以上500株未満	1 1,000円分の通信販売優待割引券 2 1,000円分の優待ポイント 3 1,000円相当の自社取扱の食品またはワインまたは日本酒
500株以上1,000株未満	1 3,000円分の通信販売優待割引券 2 3,000円分の優待ポイント 3 3,000円相当の自社取扱の食品またはワインまたは日本酒
1,000株以上	1 5,000円分の通信販売優待割引券 2 5,000円分の優待ポイント 3 5,000円相当の自社取扱の食品またはワインまたは日本酒

2 「ベルーナグループが運営及び提携する国内全ホテル、飲食店、小幡郷ゴルフ倶楽部、SPA & SAUNA コリドーの湯で使用できる優待割引券」から選択

ホテル	飲食店	その他
 GINZA HOTEL by GRANBELL	 銀座のステーキ	 小幡郷ゴルフ倶楽部(群馬)

- ・洞爺サンパレス リゾート&スパ (北海道)
- ・ザ・レイクスweet湖の栖(北海道)
- ・ニュー阿寒ホテル(北海道)
- ・定山渓ビューホテル(北海道)
- ・札幌グランベルホテル(北海道)
- ・すすきのグランベルホテル(北海道)
- ・山の神温泉優香苑 ※(岩手)
- ・裏磐梯レイクリゾート(福島)
- ・ルグラン日軽井沢(長野)
- ・ルグラン軽井沢ホテル&リゾート(長野)
- ・那須塩原ステーションホテル ※(栃木)
- ・渋谷グランベルホテル ※(東京)
- ・赤坂グランベルホテル ※(東京)
- ※提携ホテル
- ・新宿グランベルホテル ※(東京)
- ・恵比寿ホリックホテル ※(東京)
- ・目黒ホリックホテル ※(東京)
- ・赤羽ホリックホテル ※(東京)
- ・京都グランベルホテル(京都)
- ・京都グランベルホテルhanareya(京都)
- ・大阪グランベルホテル(大阪)
- ・梅田ホリックホテル(大阪)
- ・ホテル浜比嘉島リゾート(沖縄)
- ・GINZA HOTEL by GRANBELL (東京)

保有株式数	優待の内容
100株以上500株未満	券面額 1,000円の割引券 2枚
500株以上1,000株未満	券面額 1,000円の割引券 6枚
1,000株以上	券面額 1,000円の割引券 10枚

※ご利用は現地決済に限り、事前決済は適用不可となります。
 ※ご利用方法は「株主様ご優待券」冊子のP10をご覧ください。

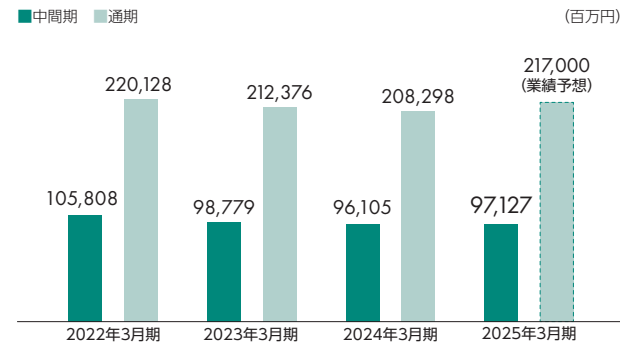
- ・銀座のステーキ 銀座本店(東京)
- ・銀座のステーキ 銀座中央店(東京)
- ・銀座のステーキ 渋谷店(東京)
- ・銀座のステーキ 恵比寿店(東京)
- ・銀座のステーキ 赤坂店(東京)
- ・銀座の蕎麦屋(東京)
- ・銀座焼肉 にく崎(東京)
- ・鉄板料亭 銀座まつさか(東京)
- ・SPA & SAUNA コリドーの湯(東京)
- ・小幡郷ゴルフ倶楽部(群馬)
- ・SPA & SAUNA コリドーの湯(東京)

発送時期・有効期限		
	発送時期	有効期限
期末	6月下旬	7月1日～12月31日
中間	12月上旬	12月1日～6月30日

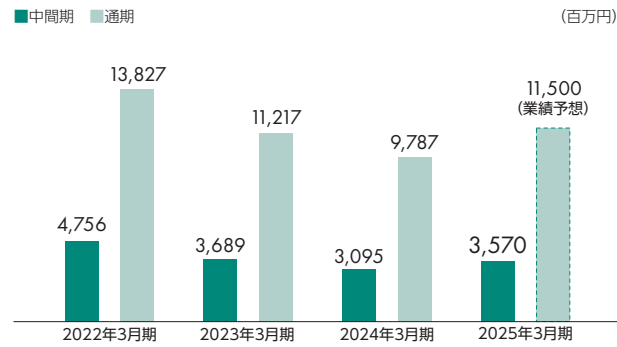
対象となる株主様

毎年3月末及び9月末の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上保有の株主様

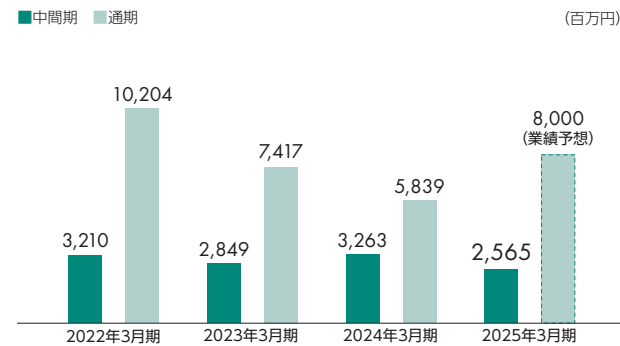
売上高



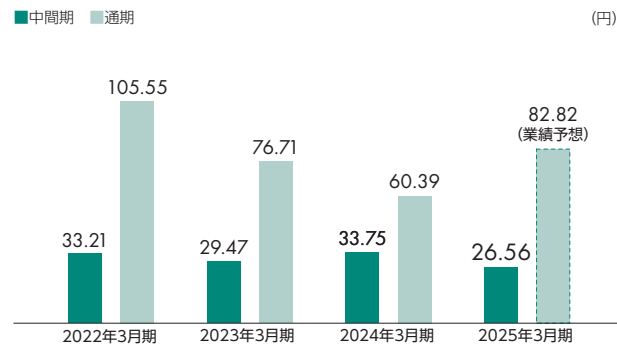
営業利益



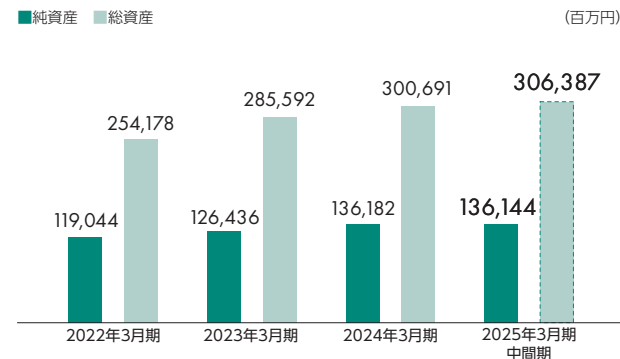
親会社株主に帰属する純利益



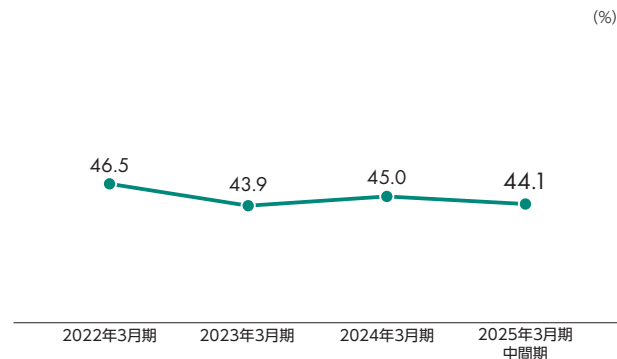
1株当たり純利益



総資産・純資産



自己資本比率



連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 2024年3月31日現在	当中間 連結会計期間 2024年9月30日現在
資産の部		
流動資産	129,961	133,372
固定資産	170,730	173,015
有形固定資産	136,909	137,155
無形固定資産	10,893	12,269
投資その他の資産	22,927	23,589
1 資産合計	300,691	306,387
負債・純資産の部		
流動負債	59,206	67,775
固定負債	105,302	102,468
2 負債合計	164,509	170,243
株主資本	133,652	134,887
資本金	10,612	10,612
資本剰余金	10,950	10,950
利益剰余金	112,545	114,119
自己株式	△455	△794
その他の包括利益累計額	1,539	381
非支配株主持分	990	874
3 純資産合計	136,182	136,144
負債純資産合計	300,691	306,387

(百万円未満を切り捨てて表示しています。)

POINT

1 資産合計

前期末に比べ5,696百万円増加しました。これは主に、流動資産において現金及び預金、営業貸付金、商品及び製品、販売用不動産が増加したこと、固定資産においてのれんが増加したことによるものです。

2 負債合計

前期末に比べ5,734百万円増加しました。これは主に、固定負債における長期借入金が増加した一方で、流動負債において未払費用、支払手形及び買掛金、契約負債、短期借入金が増加したことによるものです。

3 純資産合計

前期末に比べ、38百万円減少しました。この結果、自己資本比率は44.1%となりました。

連結損益計算書

(単位: 百万円)

	前中間 連結会計期間 2023年4月1日～ 2023年9月30日	当中間 連結会計期間 2024年4月1日～ 2024年9月30日
売上高	96,105	97,127
売上総利益	58,935	59,714
販売費及び一般管理費	55,839	56,144
営業利益	3,095	3,570
営業外収益	1,734	1,178
営業外費用	504	605
経常利益	4,325	4,143
特別利益	665	95
特別損失	5	26
税金等調整前中間純利益	4,985	4,212
法人税、住民税及び事業税	1,569	1,688
法人税等調整額	134	△55
中間純利益	3,281	2,579
非支配株主に帰属する中間純利益	17	14
親会社株主に帰属する中間純利益	3,263	2,565

(百万円未満を切り捨てて表示しています。)

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間 連結会計期間 2023年4月1日～ 2023年9月30日	当中間 連結会計期間 2024年4月1日～ 2024年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,714	5,568
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,065	△6,495
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,184	3,637
現金及び現金同等物に係る換算差額	820	230
現金及び現金同等物の増減額	1,654	2,941
現金及び現金同等物の中間期末残高	33,483	40,186

(百万円未満を切り捨てて表示しています。)

詳細な財務情報は、当社Webサイト「株主・投資家情報」をご覧ください。

■ 会社概要

会社名	株式会社ベルーナ (Belluna Co., Ltd.)		
資本金	106億12百万円		
創設	1968年9月		
設立	1977年6月		
従業員数	4,155名 (連結)		
事業内容	カタログ、ネット等による通信販売を核に、実店舗、受託、金融、プロパティ、卸売等の分野で展開する通信販売総合商社		

■ 役員

代表取締役社長	安野 清	社外取締役 (監査等委員)	山縣 秀樹
取締役	安野 雄一郎	社外取締役 (監査等委員)	渡部 行光
取締役	穴戸 順子	社外取締役 (監査等委員)	浜本 淳子
取締役	松田 智博		
取締役	宮下 正義		

■ 主な事業所

本社	(埼玉県上尾市)
本館	(埼玉県上尾市)
東京本部	(東京都中央区)
アネックスビル・第2アネックスビル	(埼玉県上尾市)
北関東グルメオーダーレセプションセンター	(埼玉県鴻巣市)
川越オーダーレセプションセンター	(埼玉県川越市)
春日部オーダーレセプションセンター	(埼玉県春日部市)
吉見口ジスティクスセンター	(埼玉県吉見町)
領家丸山流通システムセンター	(埼玉県上尾市)
領家山下流通システムセンター	(埼玉県上尾市)
宇都宮流通システムセンター	(栃木県鹿沼市)
大宮コンタクトセンター	(埼玉県さいたま市)
A-GEOタウン	(埼玉県上尾市)
アリオボールオフィス	(埼玉県上尾市)

■ 株式の状況

発行可能株式総数	260,000,000株
発行済株式の総数	97,244,472株
株主数 (除く自己名義)	65,061名

■ 大株主

	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社フレンドステージアセットマネジメント	41,383	43.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	4,959	5.1
安野清	2,916	3.0
安野公	2,914	3.0
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	2,898	3.0
株式会社三井住友銀行	2,246	2.3
野村信託銀行株式会社 (退職給付信託三菱UFJ銀行口)	1,968	2.0
ベルーナ共栄会	1,575	1.6
ベルーナ従業員持株会	1,075	1.1
株式会社日本カストディ銀行 (信託口4)	853	0.8

※持株比率は自己株式 (1,017,035株) を考慮して計算しています。

■ 所有者別株式分布状況

金融機関	個人投資家	事業会社	外国人
15.5%	32.2%	44.4%	7.9%

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

配当金受領 期末配当金 3月31日

株主確定日 中間配当金 9月30日

定時株主総会 毎年6月下旬

基準日 3月31日

株式の売買単位 100株

電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

公告の方法

公告掲載 URL

<https://www.belluna.co.jp/irinfo/stock/announcement/>

株主名簿管理人
特別口座の口座
管理機関

みずほ信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社
本店証券代行部

郵便物送付先
及び

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

お問合せ先

TEL 0120-288-324 (フリーダイヤル)

上場金融
商品取引所

東京証券取引所プライム市場